



2020年度 大学院説明会資料

筑波大学大学院  
人間総合科学学術院  
人間総合科学研究群  
障害科学学位プログラム

専攻説明会  
カリキュラム説明資料



# 障害科学学位プログラム・ 博士前期課程

# 人材養成目的

- 研究者養成の第一段階として、障害科学の科学的・実践的な研究を推進しうる研究基礎力をもった研究者、または科学的な基盤を有し、実践の場での的確に能力を発揮する、国内外のリーダーとなりうる有能な特別支援教育の教員や障害者支援の高度専門職業人を養成する。

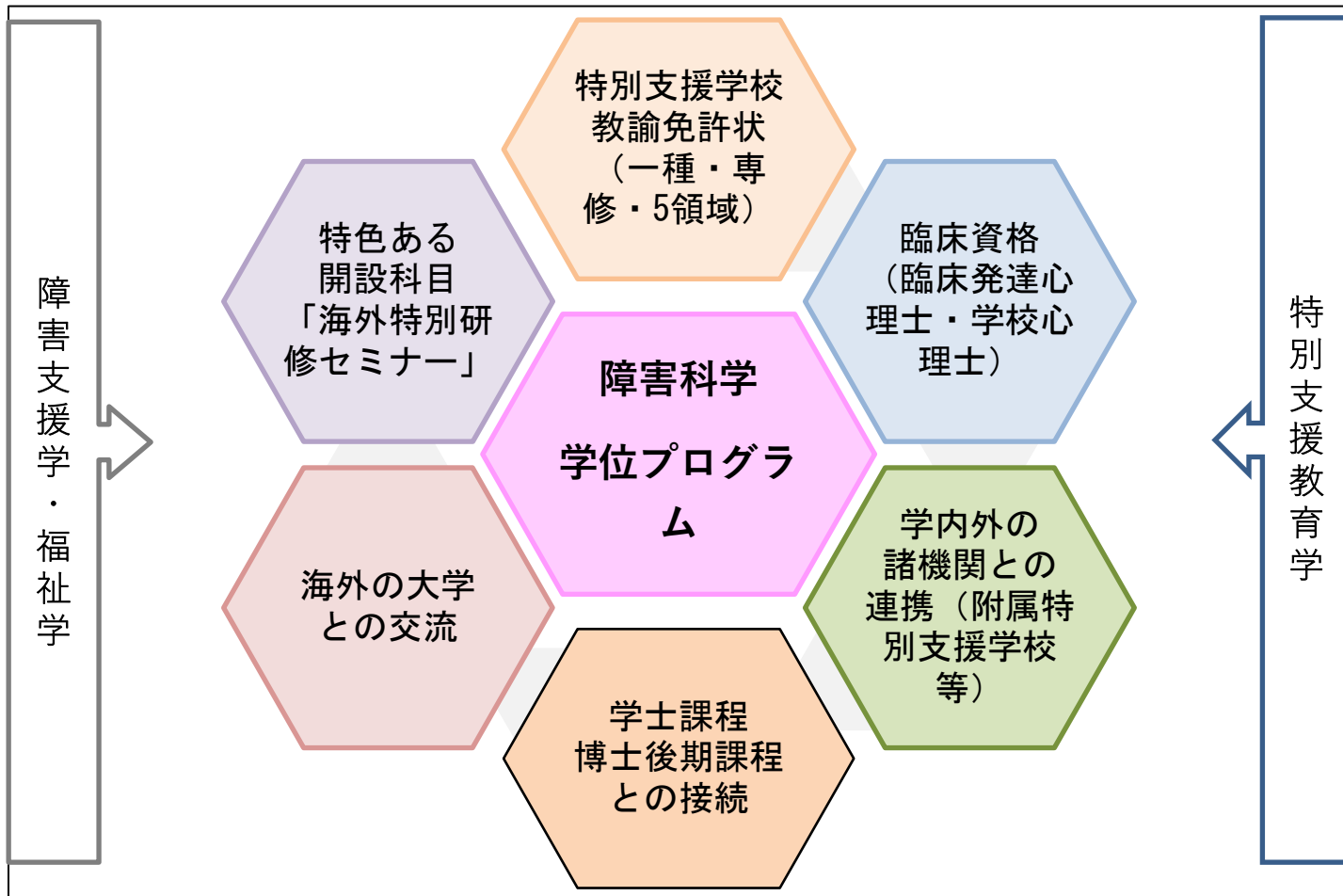
## 求める人材

- 障害科学の基礎的、実践的な知識技能に基づいて、障害の本質の解明、また障害特性の解明を通して支援技術の開発・応用に携わることができる人材。



# 障害科学学位プログラム 博士前期課程の特徴

社会の多様なニーズ(現職者研修も含む)に対応したコースワーク





# 修了要件と履修の方法

## 履修方法・修了要件

人間総合科学学術院 人間総合科学研究群 博士前期課程

障害科学学位プログラム(M) 取得できる学位は、修士（障害科学）です。

科目区分	科目群等	条件又は科目名等	修得単位数
基礎科目	障害科学関連科目	障害科学調査・実験実習Ⅰ 障害科学調査・実験実習Ⅱ 障害科学研究法Ⅰ 障害科学研究法Ⅱ 障害科学研究法Ⅲ	5
専門科目（共通）	障害科学関連科目		0～
	大学院共通科目 学術院共通専門基盤科目		0～
専門科目	障害科学科目群 障害科学関連科目	選択必修7単位（専門領域の特講Ⅰ、Ⅱ及び演習Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ）  上記以外（大学院共通科目、障害科学関連科目のうち基礎科目の選択科目、専門科目（共通）、専門科目における専門領域の科目以外の特講Ⅲ、演習Ⅰ、Ⅱ）から18単位以上	7  18～
修了単位数			30

（修了要件）

2年以上在学し、学位プログラムごとに定める修了の要件として必要な授業科目の履修により所定の単位を修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上、修士論文の成果の審査及び最終試験に合格すること。ただし、在学期間に関しては、優れた業績を上げた者については1年以上在学すれば足りるものとする。

（注）教育上有益と認められる場合には、10単位を上限として学位プログラムごとに定める範囲において、他の学位プログラムの授業科目の履修により修得した単位を修了の要件となる単位として認めることができる。



# 修学の方法とプロセス

- 基礎科目の必修科目から5単位
- 専門科目における専門領域の科目（学生が特に専門に修学する領域で論文指導教員が担当する特講Ⅰ・Ⅱ、演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ）の7単位
- その他の科目（大学院共通科目、基礎科目の選択科目、専門共通科目、専門科目における専門領域の科目以外の特講Ⅰ・Ⅱ、演習Ⅰ・Ⅱ）から18単位以上を修得し、合計で30単位以上を修得することとする。
- 修士論文作成に係る研究指導は、1年次基礎科目「障害科学調査・実験実習Ⅰ・Ⅱ」（必修）、1・2年次基礎科目「障害科学研究法Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」（必修）、ならびに、2年次専門科目「演習Ⅲ」（選択必修）で、組織的・体系的に行う。



# 修学の方法とプロセス

- 障害科学の研究者を目指す学生は、研究者養成の第一段階として、基礎科目による研究基礎力の修得と専門科目による障害専門領域・横断領域ごとの専門的知識技能の修得に重点を置いた履修とする。
- 特別支援学校や特別支援学級・通級担当の教員を目指す学生は特別支援教育分野の高度専門職業人として、基礎科目による研究基礎力の修得と専門科目（共通）群から特別支援教育に関する理念・制度、障害のある児童生徒の生理・心理・教育課程・指導法等に関する科目の履修による知識技能の修得に重点を置いた履修とする。
- 障害のある人を対象とした療育機関や福祉施設の職員を目指す学生は、障害者支援分野の高度専門職業人として、基礎科目による研究基礎力の修得と専門科目（共通）群から障害発達臨床・支援等に関する科目の履修による知識技能の修得に重点を置いた履修とする。

# 履修に関する一般的な注意事項

- ・ 学位プログラムの学生は、学位プログラムの授業は履修できますが、旧課程＝障害科学専攻の授業は履修できません。また、前期課程の学生は後期課程の授業も履修できません。
- ・ 例：障害科学学位プログラム **0ATC001**○  
障害科学専攻 **01EL001**×



HOME > 教育 > 開設授業科目一覧



教育



+ 教育理念・教育方針

+ 学群教育

+ 大学院教育

▢ 大学院共通科目

▢ 大学院共通科目について

▢ 大学院便覧

▢ 開設授業科目一覧 >

大学院教育  
開設授業科目一覧

年度：2020 | 2019 | 2018 | 2017 | 2016

・ 2020年度入学者用

・ 2019年度以前入学者用

▲ このページのトップへ





# 修士論文作成の大まかなスケジュール

- 1 年 9 月～1 0 月 相談教員決定
- 1 年 1 2 月～1 月 修士論文構想発表  
(障害科学調査実験実習Ⅱ 1 0 月～2 月での取り組み)
- 1 年 2 月 修士論文デザイン発表  
(障害科学研究法Ⅰ)
- 1 年 3 月 指導教員正式決定
- 2 年 10 月 修士論文中間発表  
(障害科学研究法Ⅱ)
- 2 年 12 月 24 日頃 修士論文提出
- 2 年 1 月 修士論文最終発表審査会  
(障害科学研究法Ⅲ)
- 2 年 3 月 学位記授与



# 免許・資格の修得について（１）

## 1. 特別支援学校教諭1種免許状

幼・小・中・高の教員免許を有している人は所定の単位を修得すれば特別支援学校教諭1種免許状の取得が可能です。また、学部段階ですでに特別支援教育の免許を有している人は領域の追加が可能です。

※1から取り始める人は教育実習が必要です。

## 2. 特別支援学校教諭専修免許状

すでに特別支援学校教諭1種免許状を有している人は、所定の単位を24単位以上修得することで、1種免許状に定められている教育領域の専修免許状が取得できます。



# 免許・資格の修得について（２）

## 臨床発達心理士の資格について（2020年度入学者用）

### 1. 臨床発達心理士とは

日本発達心理学会，日本教育心理学会，日本感情心理学会，コミュニケーション障害学会による学会連合資格。人の健やかな発達を支援する専門家。“発達の観点”をキーワードとして支援を行います。

子育てや保育の支援，発達障害児・者をはじめとする障害をもつ人の支援，青年期・成人期・老人期における社会適応の問題などに取り組みます。幼稚園・保育園，子育て支援センター，通園施設，特別支援学校，特別支援学級，通級指導教室，適応指導教室，学童保育，障害者施設，作業所，発達クリニックなどでの活躍が期待されています。

### 2. 臨床発達心理士資格の取得方法（「タイプⅠ」（院修了タイプ））

①所定の単位を取得し，②実習を行い，③事例報告を書き，④臨床発達心理士資格認定委員会が実施する資格試験を受験することにより資格が取得できます。以下は「発達心理学隣接諸科学の大学院修士課程在学中または修了後3年未満」用です（現職者等，他のタイプについては機構HPを参照）。

資格取得までの流れについても機構HPを参照：

<https://www.jocdp.jp/license/flow/>



# 免許・資格の修得について（３）

（１）臨床発達心理士の試験を受験するために必要な単位※１

**※2020 年度に単位認定申請予定の科目です。**

科目区分	障害科学専攻の該当科目	
	科目名	単 位
１．臨床発達心理学の基礎に関する科目	臨床発達心理学	２
	教育臨床発達援助論	２
２．臨床発達支援の専門性に関する科目	臨床発達心理査定法特講	２
	なし※２	なし
３．認知発達とその支援に関する科目	知的・発達障害指導法特講	２（うち１単位が基礎，１単位が評価と支援）
	知的・発達障害心理学特講	２（うち１単位が基礎，１単位が評価と支援）
４．社会・情動の発達とその支援に関する科目	行動障害指導法特講	２（うち１単位が基礎，１単位が評価と支援）
	行動問題面接指導法特講	２（うち１単位が基礎，１単位が評価と支援）
５．言語発達とその支援に関する科目	発達・行動・言語障害指導法	２（うち１単位が基礎，１単位が評価と支援）
	言語障害生理・心理学	１（基礎）
	言語障害学特講Ⅰ	２（評価と支援）

※１：出願時に「科目内容基準とシラバス内容の対応表」を自分で作成すれば，上記以外の科目も認定される可能性あり。また，上記科目以外に，臨床発達心理士認定運営機構が開設する研修でも可。

※２：該当する科目は「行動臨床心理学」の予定です（西暦奇数年度開講の隔年開講科目）。

（２）実習

200 時間以上の実習を行い（単位は不要），スーパーバイザーに所見を書いてもらう。

スーパーバイザーは基本的に修士論文の指導教員が望ましいが，相談教員以外の教育相談の相談員となっている教員に依頼もできる。その場合には事前に指導教員に相談，承諾を得ること。



## 免許・資格の修得について（４）

### 「学校心理士」の資格申請

「学校心理士」の資格申請に必要な科目は、  
障害科学学位プログラム・障害科学専攻と教育研究科スクール  
リーダーシップ開発専攻・教育学学位プログラムで開設し  
ている開設科目から履修することができます。

障害科学学位プログラムだけでは完結しません。



# 障害科学学位プログラム・ 博士後期課程



# 人材養成目的

- 障害に関連する多様な課題に即した先進的研究を行うとともに、グローバルな視点に立った障害科学関連分野における先導的教育を行うことのできる研究者等を養成する。

## 養成する人材像

- 障害のある人に関連する諸問題に対して、科学的な視点から、専門的な問題解決が可能な人材。具体的には、障害に関して幅広い知識を有し問題解決に寄与することができると共に、現実場面での問題の中から研究課題を見出すことができ、その課題を解決するための研究計画ならびにその実行を、協力者共に推進することが可能な人材。



# 障害科学専攻・後期の特徴

各論文指導教員，副指導教員とのやり取りを含めた研究指導が主

## <1年次> 博士論文デザイン発表

- 10月頃；博士論文に関わるデザイン発表に基づく研究指導委員会の指導・評価
- 随時、関連学会への論文投稿（研究指導委員会の論文指導）

## <3年次前期> 博士論文中間発表

- 学術論文が掲載あるいは投稿されており、博士論文に関するデータがおおよそ70%収集済みであることなどの基準に基づき研究指導委員会の指導・評価
- 随時、関連学会への論文投稿（研究指導委員会の論文指導）

## <3年次後期> 博士論文最終発表（学術院予備審査）

- 国際的（推奨）な又は全国的な学術誌に複数の論文が掲載されているかなどの基準に基づく研究指導委員会での指導・評価





# 履修方法・修了要件

科目区分	科目群等		条件又は科目名等	修得単位数
基礎科目	障害科学関連科目		障害科学研究実践法	1
	障害科学科目群	障害科学関連科目	海外研究活動Ⅰ・海外研究活動Ⅱ	0～2
	大学院共通科目			
	学術院共通専門基盤科目			
専門科目	障害科学学関連科目		専攻分野の講究Ⅰ～Ⅲ(各1単位)	3
			修了単位数	4

## (修了要件)

3年以上在学し、学位プログラムごとに定める修了の要件として必要な授業科目の履修により所定の単位を修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上、博士論文の審査及び最終試験に合格すること。ただし、在学期間に関しては、優れた研究業績を上げた者については1年(修士課程早期修了者等にあっては当該課程における在学期間を含めて3年)以上在学すれば足りるものとする。

(注)教育上有益と認められる場合には、学位プログラムごとに定める範囲において、他の学位プログラムの授業科目の履修により修得した単位を修了の要件となる単位として認めることができる。



# 後期課程 博士論文指導・審査に関する内規 (抜粋)

- デザイン発表会のための要件（〇〇講究I（1単位））
    - 研究指導委員会による発表可の承認
  - 博士論文を構成する論文の投稿（〇〇講究II（1単位））
  - 中間発表のための要件（〇〇講究III（1単位））
    - デザイン発表を経ている
    - 博士論文全体の7割程度の主要なデータ提示
    - 博士論文を構成する筆頭著者の研究論文少なくとも1編の投稿
      - 『障害科学研究』で代替可能
  - 最終発表のための要件
  - デザイン発表と中間発表を経ている
    - 博士論文を構成する筆頭著者の研究論文少なくとも2編の投稿
      - 採択決定の段階でも可
      - そのうち1編は『障害科学研究』で代替可能
- ※著名な国際学術誌（英文）であれば1編で可

# 博士論文指導体制と標準的な流れ

- 複数教員による論文指導（指導教員 1 名 + 副指導教員 2 名）
- デザイン発表      1 年生 10 月頃  
↓
- 中間発表      3 年生（前半）  
↓
- 最終発表（予備審査）      3 年生  
（博士論文を構成する学会誌査読付論文 2 編（または著名な英文誌 1 編）以上は必須）  
↓
- 最終審査（学位論文審査委員会にて公開発表 + 口頭試問）

< 必修 4 単位 >  
・障害科学研究実践法  
・●●講究Ⅰ  
・●●講究Ⅱ  
・●●講究Ⅲ



# 学位「博士（障害科学）」取得までの流れ

- （学位P内最終発表＝予備審査以降）
- 学位論文審査願の提出
- 人間総合科学研究群学位論文審査委員会による審査（査読・公開発表・口頭試問）
- 人間総合科学学術院運営委員会において合否判定
- 学位記授与（毎学期末）
  - － ※後期課程に3年以上在学したものは毎月末修了が可能（ただし論文発表会は年4回予定）